

授業の具体的展開例

〈話し合いによる集団解決〉

(プロジェクターやホワイトボードで表示しながら、発表させる) …

T : みんなが考えた拡大図のかき方を発表しましょう。

C 1 : わたしは、3つの辺を測って、それぞれを3倍しました。次にものさしを使って、辺BCに対応する辺EFをかきました。後は、コンパスを使って、辺ABに対応する辺DE、辺CAに対応する辺FDをこのように、かきました。

C 2 : わたしも同じかき方で、…。

T : 対応する辺を指差したり、矢印をかいたりしながら、とても分かりやすい説明ができましたね。

T : この方法をとった人は、手を挙げましょう。(名前カードを貼る) 他のかき方をした人は、ありませんか。

C 3 : ぼくは、角Bを測りました。次に辺ABと辺BCを測って、3倍してこのように2つの辺をかきました。最後に頂点Aと頂点Cをつないで、辺ACをかきました。

C 4 : わたしはこんなかき方をしましたが、どのかき方の仲間なのか分かりません。教えてください。

T : このように、皆さんが考えた拡大図のかき方は、3通りに分けることができましたね。他の方法をとった人はいませんか。…

T : 自分のかき方について、ワークシートにかいた説明が十分でないと思う人は、かき足しましょう。

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、前時まで使っていた方眼を用いなくて、拡大図のかき方を考える授業である。

児童なりにかく方法を考えさせ、どこを測ればよいかを考えさせる。作図とともに、考え方についてワークシートに図や文で記述させておく。話し合いでは、自分のかき方と比較させながら、3通りのかき方にまとめ上げさせることで、思考したり判断したりする力を伸ばすことをねらいとしている。

そのため、机間指導において各児童の考え方を把握し、必要に応じて個別指導し、指導計画を立てる。また、作図作業の個人差をとらえ時間配分などに配慮する。

さらに、縮図の適応問題で確実な定着を図るとともに、ヒントカード等個に応じた指導も準備する。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時では、自分の方法をはっきりもたせ、それを基に、他の児童の方法と比較させることが大切である。その方法を相手に分かるように説明させることにより、思考力、表現力を伸ばす。

「活用」の力を見取る具体的な視点として、

- ① 拡大図、縮図のかき方が分かり、作図したり、説明したりすることができる。
- ② 拡大図、縮図のかき方が分かり、作図はできるが、説明が十分でない。
- ③ 拡大図、縮図の説明はできるが、作図が十分でない。
- ④ 拡大図、縮図の意味が分からない。

が考えられる。③④の状態をつくらないうために、児童の状況を予想し、作図の方法や説明の仕方についてのヒントカードをあらかじめ用意しておいたり、正答の作図をトレース紙で準備しておいたりするなど、素早く児童の状況をとらえて個別指導をするようにする。①の状態にするため、④はもちろんのこと、②③の児童に対して自力解決、集団解決の話合いの場面における見取りと指導、適応問題での個別指導を充実させる。さらに、振り返りでは、学習内容を整理させ、書くことを通して既習事項を次の学習に活用する力を育てる。